甲状腺がんに対する放射性ヨウ素（ヨード）内用療法について

どのような治療法か？

甲状腺は、海藻などの食品中に含まれるヨウ素を取り込んで甲状腺ホルモンを作っている臓器です。甲状腺がんの中にもヨウ素を取り込むタイプのものがあります。このような場合に放射性ヨウ素(I-131)のカプセルを内服すると、腫瘍細胞にこの薬が取り込まれ、薬から発生する放射線によって腫瘍のみに選択的に放射線をあてて治療することができます。

この治療を受けるには以下の条件を満たしている必要があります

1. 手術によって甲状腺が完全に摘出されていること(甲状腺全摘術後であること)
   甲状腺が残っていると腫瘍に十分な放射性ヨウ素が取り込まれないため効果がでません。
2. 腫瘍がヨウ素を取り込むタイプであること
   甲状腺がんの中にもこの治療が効かないケースがあります。
3. 女性の場合、妊娠・授乳をしていないこと。また男女を問わず、治療後半年間は避妊が必要となります。

実際にこの治療をおこなう場合は

1. 入院前よりヨウ素の含まれない食事を開始してもらいます。
2. 入院前より甲状腺ホルモン剤（チラーヂンＳ、レボチロキシンなど）を中止します。
   甲状腺ホルモン剤を中止することによって倦怠感や寒気、便秘症などの甲状腺機能低下症状を生じる可能性があります。また病気が悪化してしまう可能性があります。
3. 約２週間の入院が必要です。
4. 放射性ヨウ素を内服した後、体内から放出される放射線の量が低下するまでの数日間（最低でも３日間）はアイソトープ治療室に隔離されます。隔離中は通常の医療や看護が受けられない状態となります。

副作用について

1. 早期に生じるもの
   全身倦怠感、食欲低下、吐き気・嘔吐、脱水症、くびの腫れ・痛みなど
2. 遅れて生じるもの
   味覚障害、白血球・血小板の減少、生理不順、唾液腺炎、口腔乾燥症など
3. 頻度はごくまれですが、命にかかわるかもしれないもの
   白血病などの二次発癌、肺線維症、骨髄機能低下症など

名古屋大学医学部附属病院　放射線科